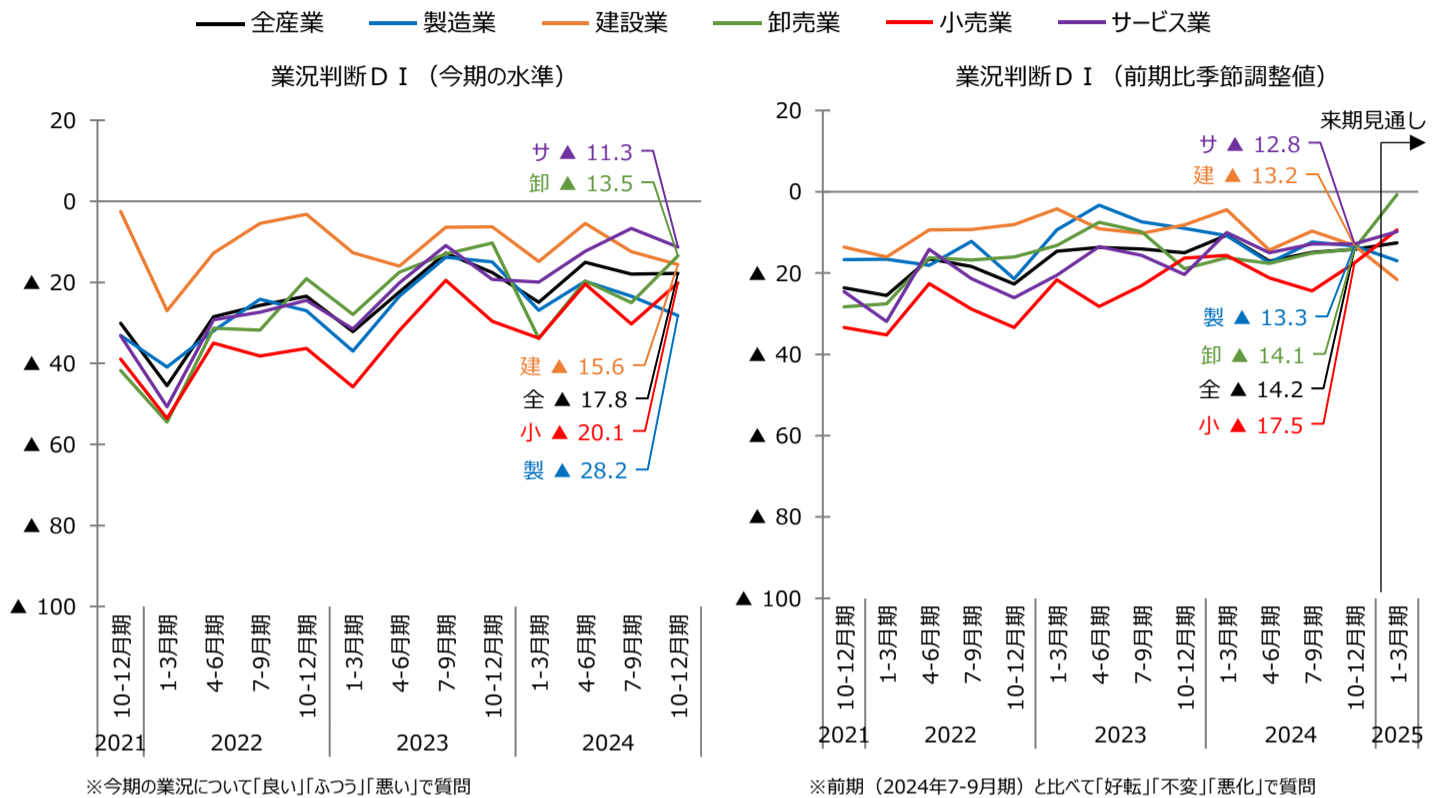


第178回 中小企業景況調査（2024年10-12月期） 北海道



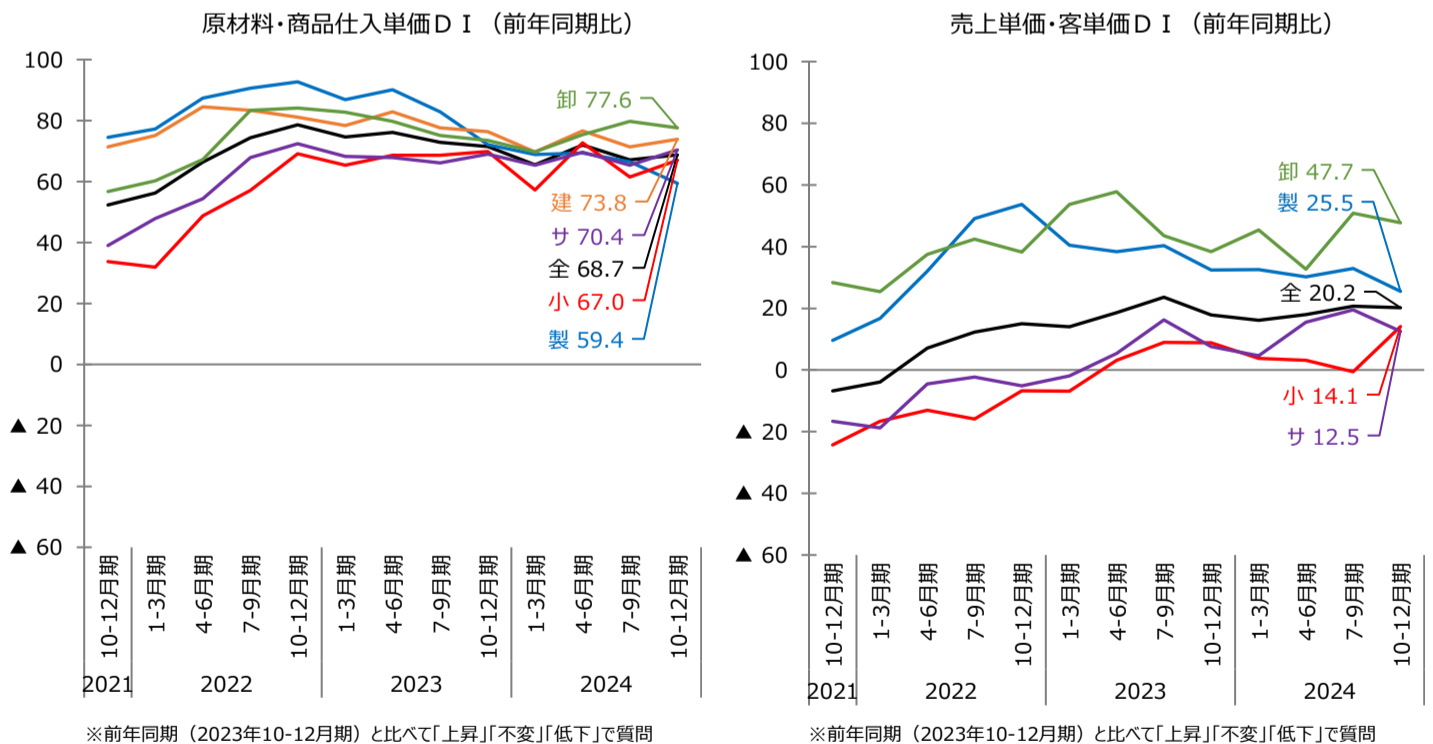
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年7-9月期）より0.2ポイント増の▲17.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、製造業、サービス業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.6ポイント増の68.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、建設業で上昇し、製造業、卸売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント減の20.2と3期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、製造業、サービス業、卸売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,592 有効回答企業数：17,565 有効回答率：94.5% うち、北海道：728企業

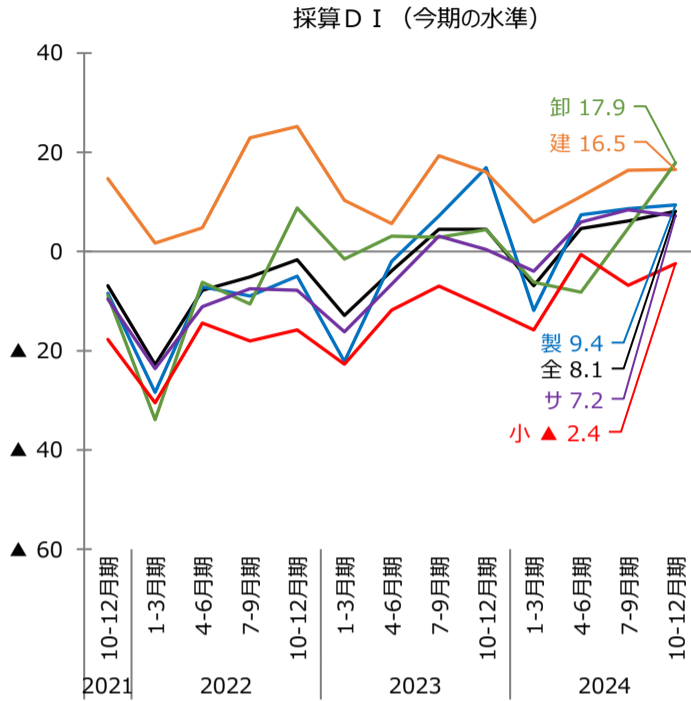
※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第178回 中小企業景況調査（2024年10-12月期） 北海道



3. 採算

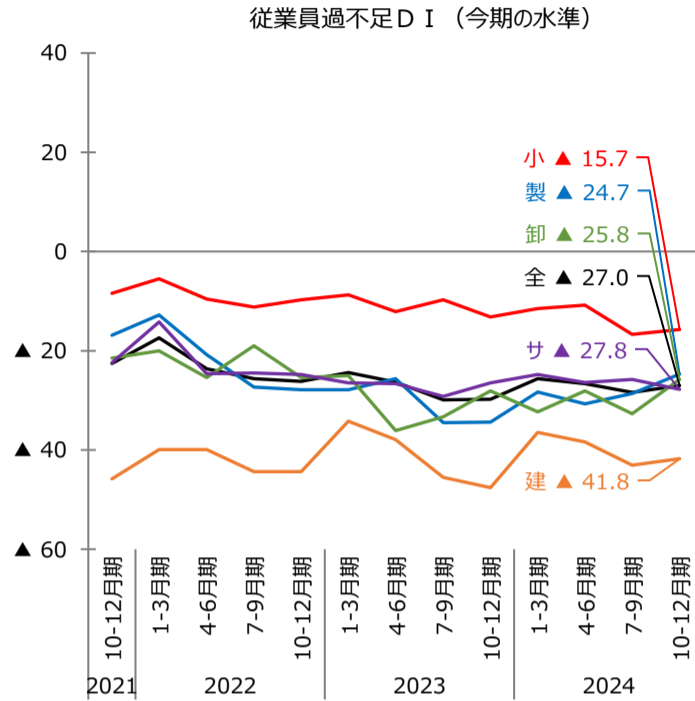
採算DIは、全産業で前期より1.9ポイント増の8.1と3期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業、建設業で上昇し、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.4ポイント増の▲27.0と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、建設業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	ここ数ヶ月で大きな改修工事の受注があり、その工事も完成の目途がたち落ち着いてきている。年末に向けまだ数件大きな工事の受注をいただいているので今期の売上は順調といえる。	製造業	鉄骨製造業
	最低賃金が上がり、官公需要も停滞気味の中、会社の事業承継も考えていかなければならない。非常に難しい経営環境であるが、承継人は目途がついているため、教育もしっかりと行いながら、事業を存続させていく。	建設業	木造建築工事業
	働き方改革による残業時間抑制 賃上げするには業績を上げるしかなく、結局一人当たりの仕事量が増えることとなる。その度合いを模索しているが限度がある。	卸売業	電気機械器具卸売業 (家庭用電気機械器具を除く)
	物価高騰により石油・食品の次となる衣類は来客数の減少が目立ち、単価が高額思考の方でも従来の4分の3の価格にとどまり、低価は千円前後と販売価格が延びる時期ですが景気が気候の変化が本来の購買意欲が感じられない。	小売業	呉服・服地小売業
	従業員の年齢及び健康状態を考慮しても、事業存続及び事業承継について熟考する時期にきているが進んでいないのが現状。少ない人数で業務を遂行するのが常となっている状況が続くのは非常に望ましくない。	サービス業	自動車一般整備業
見通し	原材料の高騰が止まらない。来年度予算見積を出す時期となるが、先を見通せない状況。	製造業	オフセット印刷業(紙に対するもの)
	今年は、新築工事が減少していて、その分改修工事、テナント工事等で穴埋めしているのが現状であります。来期はどうか不透明であり、不安要素です。	建設業	左官工事業
	顧客の投資姿勢は更新投資に偏り、本来の効率化、DX化への感心が二次的となっている積極的な投資が少なく、業績全体の底上げにつながらず更新的な気づきへの活動が求められる。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	米不足が落ち着いたのは良かったが、新米の販売価格が上昇したため節約志向がさらに高まり買い控えに拍車がかかっている。この状況で10月からの最賃引き上げ分をカバーできるほど売上が増加するとは思えない。	小売業	各種食品小売業
	仕入単価の上昇が止まらず、利益の悪化が加速していると感じる。忘年会シーズンで客数は増加するが、適正な利益の確保につながるよう利用者のニーズの変化に対応した経営に努めていかなければならない。	サービス業	酒場、ビヤホール

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。